

「平和・人権・民主主義」を守りぬき、 子供たちが輝く未来を創造するために闘おう！

J R総連は第 24 回参議院選挙で、「戦争する国づくり」に向けて暴走する安倍政権に緊急ブレーキをかけるために、組織内候補者「たしろかおる」とともに、推薦候補者 27 名全員の当選に向け全力を傾注してきた。

しかし、残念ながら組織内候補者「たしろかおる」参議院議員は惜敗する結果となったが、推薦候補者 17 名の当選を勝ち取ることができた。2 年間闘い抜いた J R総連の全組合員・ご家族・OB 会、そして全自交労連の仲間の皆様と、固く連帯し支援をいただいた皆様に感謝とお礼を申し上げる。

今回の選挙は安倍首相が進める「憲法改正」の賛否が争点であったが、与党は「憲法改正」を語らず、野党はそれを突き崩せないまま選挙戦に突入した。しかも、今回の選挙から投票年齢が 18 歳に引き下げられたにもかかわらず、過去 4 番目に低い投票率となり、無党派層の政治に関する関心を取り戻すことはできなかった。

自民・公明・おおさか維新の会など改憲勢力は、国会議員の 3 分の 2 議席を確保し、衆参両院での改憲発議が可能となった。安倍首相は改憲を視野に攻勢をかけるだろうが、私たちは「平和・人権・民主主義」を守るために闘い抜く。

「報道の自由」の危機が叫ばれ、原発再稼働や沖縄辺野古への新基地建設など、安倍首相は国民の声に一切耳を傾けず「戦争する国づくり」に突き進んでいるが、強行採決された安全保障関連法は多くの憲法学者が指摘するように「憲法違反」である。

憲法に縛られる側の権力者が、憲法に違反する法律をつくり、それを主権者の国民に押しつける安倍首相の政治手法は、問われてしかるべきである。

アベノミクスの行き詰まりは誰の目にも明らかである。非正規労働者は全労働者の 4 割を超え、2,000 万人を突破し、その 7 割が年収 200 万円以下での生活を強いられている。世界でも貧困や格差が拡大しているが、私たちは子供たちが輝く未来を創造しなければならない。

本当の闘いはこれからである。職場からの要求や政策提言は現に存在する。職場の声を国政へ反映させることこそ、労働組合の任務である。私たちは今後も当たり前の組合運動を全組合員と共に愚直に推し進め、政策課題の実現に向けて奮闘する。

そして、憲法改悪を阻止し、平和な日本と働きやすい社会を創造する「新たな闘い」に決起する。私たちは 2 年間の闘いを通じて全組合員に向き合い、着実に組合員の政治意識を向上させ、総対話行動を通じて組織を強化してきた。その組織を基礎に、すべての仲間と共に固く連帯し、闘いを強化しよう。

全国のすべての組合員の皆さんに感謝し、第 24 回参議院選挙の集約にあたっての见解とする。

2016年7月11日

全日本鉄道労働組合総連合会（J R総連）